

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	運動学 Kinesiology	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	西出 圭吾 先生 富山 直輝 先生
学科	作業療法科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期
コース	昼間 I 部					曜日・時限	火曜・3.4限、木曜・1.2限

【授業の学習内容】

第4章 四肢と体幹の運動

1 機能解剖学-筋学を中心に 2 上肢帯と上肢の運動

1) 上肢帯と肩関節での上腕の運動 2) 肘関節と前腕の運動 3) 手関節と手の運動

3 下肢帯と下肢の運動

1) 下肢帯と股関節の運動 2) 膝関節の運動 3) 足関節と足の運動

第8章 歩行と走行

1 歩行と運動学 2 歩行周期

※実務者経験：2008年に理学療法士免許取得し、整形外科病院にて整形疾患、中枢疾患の患者様を中心に徒手療法を行ってきた。

※実務者経験：1996年に作業療法士免許を取得し、2008年博士課程終了。鹿教湯病院に勤務後、現在は星城大学にて勤務。

【到達目標】

上肢における関節運動学の理解

・上肢の各関節の構造を述べるができる。・上肢の各関節運動および筋・制限因子について述べるができる。

・関節包内運動について述べるができる。

下肢・体幹・顔面における関節運動学の理解

・下肢・体幹の各関節の構造を述べるができる。・下肢・体幹の各関節運動および筋・制限因子について述べるができる。

・関節包内運動について述べるができる。・顎関節、表情筋の機能について述べるができる。

歩行運動の理解

・歩行の各階層について述べるができる。歩行時の関節角度・筋活動について述べるができる

授業計画・内容

1回目	オリエンテーションを実施することができる。
2回目	関節の構造と機能について説明することができる。
3回目	肩甲帯の機能解剖について説明することができる。
4回目	肩甲上腕関節の機能解剖について説明することができる。
5回目	肘関節・前腕の機能解剖について説明することができる。
6回目	手関節・手指の機能解剖について説明することができる。
7回目	股関節の機能解剖について説明することができる。
8回目	膝関節の機能解剖について説明することができる。
9回目	足関節の機能解剖について説明することができる。
10回目	頸椎の機能解剖について説明することができる。
11回目	胸椎・胸郭の機能解剖・呼吸運動について説明することができる。
12回目	腰椎の機能解剖について説明することができる。
13回目	顎関節・顔面筋の機能解剖について説明することができる。
14回目	姿勢について説明することができる。
15回目	歩行運動について説明することができる。
16回目	試験

準備学習 時間外学習	事前学習として四肢および脊柱についての解剖学的知識の復習が必要です。各関節運動を理解するために、主動作筋・補助動筋について起始・作用・神経支配及び作用について復習するように。また、都度小テストを実施します。講義ごとに復習しておくようにしてください。		
---------------	--	--	--

評価方法	定期試験(100%)	評価方法はGPA制度となります	人体の関節の構造・筋の働きについて学びます。また基本動作の分析を学びます。
------	------------	-----------------	---------------------------------------

受講生への メッセージ	運動学は作業療法を行う上で核となる科目の一つです。解剖学・生理学とともにきちんと身につけて作業療法評価・治療に結び付けられるように予習・復習していきましょう。		
----------------	---	--	--

【使用教科書・教材・参考書】

基礎運動学 第6版 補訂 医歯薬出版株式会社

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	運動学 実習 (Practical Kinegiology)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	佐藤 嘉晃
学科	作業療法科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	45 (1)	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	火曜 ・ 1.2限

【授業の学習内容】

運動学の知識の深める目的で、今まで学んだ基礎運動学および運動学に加えて、基礎医学として、解剖学・生理学の知識をまとめ、加えて関節運動・歩行・栄養・循環・運動学習など専門職に必要な知識の定着を期待する。

※実務者経験

佐藤：1990年～1997年 尾張温泉リハビリかえ病院で臨床業務に従事。1997年～国立療養所東名古屋病院附属リハビリテーション学院 作業療法科で「臨床運動学」を担当。

【到達目標】

運動学で学んだ関節運動などの知識を深めるために、個人の運動における特徴を理解し解釈できる知識と技術を身に付ける。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション		
2回目	解剖学・生理学と運動学1		
3回目	解剖学・生理学と運動学2		
4回目	解剖学・生理学と運動学3		
5回目	解剖学・生理学と運動学4		
6回目	解剖学・生理学と運動学5		
7回目	解剖学・生理学と運動学6		
8回目	解剖学・生理学と運動学7		
9回目	解剖学・生理学と運動学8		
10回目	解剖学・生理学と運動学9		
11回目	解剖学・生理学と運動学10		
12回目	解剖学・生理学と運動学11		
13回目	解剖学・生理学と運動学12		
14回目	解剖学・生理学と運動学13		
15回目	解剖学・生理学と運動学14		
16回目	解剖学・生理学と運動学15		
17回目	解剖学・生理学と運動学16		
18回目	解剖学・生理学と運動学17		
19回目	解剖学・生理学と運動学18		
20回目	解剖学・生理学と運動学19		
21回目	解剖学・生理学と運動学20		
22回目	解剖学・生理学と運動学21		
23回目	まとめ		
準備学習 時間外学習	実習科目なので、出席と時間中の関わり貢献を評価します。また、自宅での学習が必要な場合はできる限り、真剣に取り組んで下さい。		
評価方法	レポート(100%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	基礎運動学、運動学で学んだ知識を、確実なものにしていきます。
受講生への メッセージ	国家試験の出題範囲でも重要な分野です。知識の定着は必須の領域ですので、苦手な方は早め手をつけましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】			
基礎運動学 第6版 補訂 医歯薬出版株式会社			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	内科学 (Internal Medicine)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	齋藤 研
学科	作業療法科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
コース	昼間 I 部					曜日・時限	木曜 ・ 3限

【授業の学習内容】

・内科学は医学・医療の基本である。近年、高齢社会により、一人の患者が複数の疾患を有する特徴がある。リハビリテーション専門職として作業療法の実践やリスク管理上必要な知識を習得する。内科学の思考過程を理解すると共にリハビリテーション学との関連性について習得する。
 ※実務者経験：1984年中学校・高等学校教員免許取得。1995年医師免許取得し内科医として勤務する。

【到達目標】

1. 内科学に基本的な症候学、診断学及び治療学を説明することができる。
2. 主要疾患の病因・病態に関する知識を習得する。
3. リハビリテーション学との関連性について説明することができる。
4. 疾病の予防、発症、治癒に関する知識を習得する。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーションを実施する。
2回目	循環器について理解し説明することができる。
3回目	呼吸器・循環器について理解し説明することができる。
4回目	呼吸器・循環器について理解し説明することができる。
5回目	腎・電解質について理解し説明することができる。
6回目	腎・電解質について理解し説明することができる。
7回目	消化器について理解し説明することができる。
8回目	消化器について理解し説明することができる。
9回目	内分泌・代謝について理解し説明することができる。
10回目	内分泌・代謝について理解できる。
11回目	アレルギー疾患・免疫について理解し説明することができる。
12回目	アレルギー疾患・免疫について理解し説明することができる。
13回目	消化器について理解し説明することができる。
14回目	消化器について理解し説明することができる。
15回目	総復習し試験準備をすることができる。
16回目	試験

準備学習
時間外学習 講義資料を持ちいて復習してください。多くの医療用語があります。分からない読みなどそのままにせず、解決して次に進んでください。

評価方法	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	内科的疾患の病態・診断・治療について学びます。
------	---	--	-------------------------

受講生への
メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

標準理学療法・作業療法 内科学 第4版

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	整形外科Ⅱ (Orthopedics SurgeryⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	渡 賢治
学科	作業療法科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	木曜・4限

【授業の学習内容】

整形外科Ⅱでは、整形外科疾患各論 整形外科外傷学 スポーツと整形外科について 病態、症状、診断、治療、予後の概要をリハビリテーションを含め講義する。
 ※実務者経験：日本整形外科学会専門医。日本整形外科学会リウマチ認定医。日本整形外科学会運動器リハビリテーション認定医

【到達目標】

運動器一般を理解することは重要なことであり、運動器疾患を扱う整形外科とは切っても切り離せない関係にある。運動器疾患の病態像の習得から、なぜこのような治療をおこなうのかの深い理解となる。この理解の上で理学療法作業療法を施行される理由が十分に会得される。

授業計画・内容			
1回目	整形外科について説明することができる。		
2回目	上肢骨折について説明することができる。		
3回目	下肢骨折について説明することができる。		
4回目	脱臼について説明することができる。		
5回目	脊椎損傷 脊髄損傷について説明することができる。		
6回目	末梢神経損傷について説明することができる。		
7回目	変性疾患について説明することができる。		
8回目	変性疾患について説明することができる。		
9回目	脊椎疾患について説明することができる。		
10回目	脊椎疾患について説明することができる。		
11回目	肩疾患について説明することができる。		
12回目	スポーツ整形について説明することができる。		
13回目	スポーツ整形について説明することができる。		
14回目	スポーツ整形について説明することができる。		
15回目	総復習し試験準備をすることができる。		
16回目	試験		
準備学習 時間外学習	内容が多いので事前に配布する資料は、授業前に目を通しておいください。		
評価方法	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	整形外科的疾患の病態・診断・治療について学びます。
受講生への メッセージ	整形外科とは、運動器官を構成するすべての組織、つまり骨、軟骨、筋、靱帯、神経などの疾病・外傷を対象とし、その病態の解明と治療法の開発および診療を行う専門領域です。 その対象は脊椎(脊柱)・脊髄、骨盤、上肢(肩、肘、手、手指)、下肢(股、膝、足、足指)など広範囲に及びます。新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層が対象になり、その内容は多様で治療の必要な患者数が極めて多いのが整形外科の特徴です。		
【使用教科書・教材・参考書】			
病気がみえる〈vol.11〉運動器・整形外科 MEDIC MEDIA			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	脳神経内科学Ⅱ (Neurology Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	後藤 桂
学科	作業療法科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	月曜 ・ 1.2限

【授業の学習内容】

授業内容：一年時に学習した神経系の構造・症候学の知識を応用し、脳神経外科・神経内科領域の疾患を理解し、その疾患イメージを形成しさらにはリハビリテーションの基本的考え方で学ぶ。

実務者経験：箕面市立病院、白鵬女子短期大学講師を経て、星田南病院に勤務。

【到達目標】

- ・脳・神経領域の基本的知識が定着する。
- ・脳・神経領域の各疾患について、疾患の基礎を理解し学習する。
- ・脳・神経領域の各疾患について、定型的な疾患イメージを形成する。
- ・脳・神経領域の各疾患について、リハビリテーションの基本的考え方を学ぶ。
- ・上記に関わる国家試験問題を解くことができる。

授業計画・内容

1回目	基本知識の復習講座
2回目	脳血管疾患総論について理解することができる
3回目	脳血管疾患(脳梗塞)について理解することができる
4回目	脳血管疾患(脳出血)について理解することができる
5回目	外傷性脳損傷について理解することができる
6回目	神経変性疾患について理解することができる(1)
7回目	神経変性疾患について理解することができる(2)
8回目	脳腫瘍について理解することができる(1)
9回目	脳腫瘍について理解することができる(2)
10回目	脱髄性疾患について理解することができる(1)
11回目	脱髄性疾患について理解することができる(2)
12回目	ミオパチーについて理解することができる
13回目	ニューロパチーについて理解することができる
14回目	認知症について理解することができる
15回目	総復習 & 試験対策講座
16回目	試験

準備学習
時間外学習 理解に必要な基本知識を復習した上で受講すること。

評価方法	1. 定期試験(80%) 2. 小テスト(20%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	神経内科的疾患の病態・診断・治療について学びます。
------	--	--	---------------------------

受講生への
メッセージ 日々の復習なしでは履修が困難な科目です。

【使用教科書・教材・参考書】

病気がみえる〈vol.7〉脳・神経 MEDIC MEDIA

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	小児科学 (Pediatrics)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	高橋 秀平
学科	作業療法科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	土曜・3.4限
【授業の学習内容】 ・健常児の発育、発達、生理、栄養、仕組み等を習得する ・小児の成長・発達を評価できる ・発達過程に起こり得る疾患とその特徴を把握する 実務者経験:2012年理学療法士免許取得。回復期リハビリテーションに携わった後に、2014年～小児領域の理学療法に従事。そのほか、愛知県三河青い鳥臨床歩行分析研修会講師を6年間、特別支援学校中堅教諭資質向上研修(後期)講師を3年間努めている。							
【到達目標】 1.胎生期の成長から小児の成長発達について説明できるようになる。 2.小児特有の病態を理解し、疾患の徴候・症状を把握できるようになる。 3.小児の心と身体を理解した上で関わり方を考えることができるようになる。							

授業計画・内容			
1回目	小児科学概論		
2回目	発育と発達		
3回目	小児発達評価, 検査		
4回目	各論①(循環器疾患, 代謝・内分泌疾患, 腎・泌尿器疾患)		
5回目	各論②(先天性疾患, アレルギー疾患, 感染症)		
6回目	各論③(神経・筋疾患)		
7回目	各論④(発達障害)		
8回目	総復習, 試験準備		
9回目	試験		
準備学習 時間外学習	毎回の講義資料を見直して必ず復習すること。		
評価方法	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	小児疾患の病態・診断・治療について学びます。
受講生への メッセージ	疾患の理解は評価や治療プログラムの立案を行う上で非常に重要です。 単に試験や国家試験への対策として学ぶのではなく、将来、臨床を行うことを想定しながら学習を進めてほしいと思っています。		
【使用教科書・教材・参考書】			
教科書	＜編集＞富田豊 ＜テキスト名＞標準理学療法学・作業療法学 小児科学 ＜出版社＞医学書院		
参考書	＜テキスト名＞病気がみえる Vol.15 小児科 ＜出版社＞ MEDIC MEDIA		

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	社会福祉論 (Study of Social Welfare)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	高橋知己
学科	作業療法科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	金曜 ・ 4限
【授業の学習内容】 社会福祉とは、社会的に不利な立場に追いやられた人々や困難な状況に置かれた人々の生活を支援し、社会全体の福祉の向上を目指す活動や制度を指します。社会福祉の法施策に基づく福祉サービスを、社会福祉援助技術を活用して提供することで、より良い生活環境を構築し、生活の質の向上を目指します。 本講義では社会福祉の法施策の内容や法施策に基づくサービスの内容等を参考資料と、公に公開されている資料を活用して学習します。また、社会福祉援助の学習においては、基礎的な理論の理解に加え、支援現場での具体的なエピソードや事例を取り入れることで、より実践的な知識を深めることを目指します。							
【到達目標】 ①支援対象者(患者)一人ひとりをかけがえのない存在として捉え、人権の尊重と誠意を持った姿勢を身につける。 ②社会からの影響を受けながら営まれる一人ひとりの生活歴を踏まえて、現状を多角的に捉える視点を理解する。 ③多機関・多職種連携における自身の役割を理解し、円滑で的確な連携を実現するために必要な知識とスキルを習得する。							

授業計画・内容			
1回目	社会福祉の支援現場と、社会福祉の援助の概要を学ぶ。		
2回目	人権と人権擁護の実現のために制定された法施策、制度等を学ぶ。		
3回目	社会変動に応じて発展してきた社会福祉の歴史を学ぶ。		
4回目	社会福祉の支援制度と、制度を運用するためにどのような組織があるのか学ぶ。		
5回目	社会福祉の運営がどのような原理と原則に基づいているか、運用の枠組みも含めて見てみる。		
6回目	生活保護の原理・原則を中心に、生活保護の運用と解釈を学ぶ。		
7回目	生活困窮者自立支援制度や生活福祉金貸付など、生活保護に至る前の状況の方への支援に役立つ法施策、制度を学ぶ。		
8回目	介護保険や年金制度など高齢期の支援ニーズや生活の支援に役立つ制度を学ぶ。		
9回目	障害のある人々が利用できる支援や福祉サービスについて学び、関連する法施策を理解する。		
10回目	住み慣れた地域での生活を支える地域福祉を学ぶ。		
11回目	ソーシャルワークの原理と対人援助の構造を学ぶ。		
12回目	社会福祉サービスの利用等、社会福祉の援助を行う基本的な展開過程を学ぶ。		
13回目	アセスメントを中心とした本人と家族等の理解を深めて支援を展開する技術を学ぶ。		
14回目	多様化・複雑化する生活問題に対応するために求められる多機関・多職種連携を学ぶ		
15回目	総括と小テスト		
16回目			
準備学習 時間外学習	厚生労働省のホームページや自治体のホームページ内にある社会福祉に関する各種制度の案内等を適宜、閲覧してください。		
評価方法	1. 定期試験(50%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(50%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	これから資格を取得して実際に支援現場に立つとき、自分が出会う人々に、どんな役に立つ内容なのか、どのように業務に役立ることが出来るのか、考えながら受講していただけると嬉しく思います。		
【使用教科書・教材・参考書】			
使用教科書:なし 参考図書:①古川孝順『福祉ってなんだ』岩波書店、2008年 ②岩田正美・上野谷佳代子・藤村正之著『ウェルビーイング・タウン 社会福祉入門・改訂版』有斐閣、2018年			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	基礎作業学Ⅱ (Basic OccupationologyⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	磯貝 理栄
学科	作業療法科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	月曜 ・ 1限

【授業の学習内容】

作業療法の臨床場面でのどのような理論を用いているのかを理解することにより、作業療法実践における思考過程や治療の根拠に関する理解を深めていくことを目的とする。

※実務者経験：1993年に作業療法士免許を取得し、総合病院にて急性期・回復期、訪問看護ステーションにて訪問リハビリテーションに携わってきた。

【到達目標】

1. 作業療法に関する理論について習得する。
2. 作業療法特有の実践理論・モデルを習得する。

授業計画・内容

1回目	理論とは、理論の変遷について説明することができる。
2回目	カナダ作業遂行モデルについて説明することができる。
3回目	人間作業モデル(基本的理論)について説明することができる。
4回目	人間作業モデル(評価)について説明することができる。
5回目	その他の作業に焦点を当てたモデル(川モデル、OTIPM等)について説明することができる。
6回目	その他の各種モデル(運動学習モデル等)について説明することができる。
7回目	その他の各種モデル(精神分野の理論等)について説明することができる。
8回目	作業科学について説明することができる。
9回目	試験

準備学習
時間外学習

随時、課題を配布するため、積極的に取り組んで授業に参加してください。
また、随時確認テストも行います。できなかった部分を復習してください。

評価方法	1. 定期試験(70%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(30%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	作業療法の理論(作業科学・MOHO・MTDLPなど)を学びます。
------	--	--	----------------------------------

受講生への
メッセージ

作業療法の根拠となる考え方について学びます。
難しい表現も出てきますが、生活と結びつけて考えられるようにしましょう。

【教科書】なし

【参考書】ギャーリー・キールホフナー著)：作業療法実践の理論 原書第4版. 医学書院.
 ギャーリー・キールホフナー著)：人間作業モデル 理論と応用 改訂第4版. 協同医書出版社.
 エリザベス・タウンゼント/ヘレン・ボラタイコ編著：吉川ひろみ/吉野英子監訳：続・作業療法の視点
 日本作業療法士協会 監). 澤田雄二 編)：作業療法学全書 改訂第3版 第2巻 基礎作業学. 協同医書出版社.

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	作業学 実習Ⅱ (Occupationology Practice Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	作業療法科教員
学科	作業療法科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	45 (1)	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	水曜 ・ 3,4限

【授業の学習内容】

国家試験で出題されやすい作業活動から、現場ですぐに活かせる作業活動まで幅広く経験する。また、それぞれ実施した内容をレポート提出し、知識の整理を行う(アンデルセン、機織り、刺し子、簾細工、作業計画・実施、作業分析)。

※実務者経験

(佐藤)実務者経験:1990年～1997年 尾張温泉リハビリかにかえ病院で臨床業務に従事。1997年～国立療養所東名古屋病院 附属リハビリテーション学院 作業療法科で「作業学 実習」を担当。

(磯貝)実務者経験:1993年に作業療法士免許を取得し、総合病院にて急性期・回復期、訪問看護ステーションにて訪問リハビリテーションに携わってきた。

【到達目標】

作業活動の実践を行い、作業の手順、方法、使用する道具などを理解する。

授業計画・内容			
1回目	作業分析について説明することができる(1)		
2回目	作業分析について説明することができる(2)		
3回目	作業分析について説明することができる(3)		
4回目	刺し子を作成することができる(1)		
5回目	刺し子を作成することができる(2)		
6回目	刺し子を作成することができる(3)		
7回目	機織りを作成することができる(1)		
8回目	機織りを作成することができる(2)		
9回目	機織りを作成することができる(3)		
10回目	アンデルセンを作成することができる(1)		
11回目	アンデルセンを作成することができる(2)		
12回目	アンデルセンを作成することができる(3)		
13回目	アンデルセンを作成することができる(4)		
14回目	籐細工を作成することができる(1)		
15回目	籐細工を作成することができる(2)		
16回目	籐細工を作成することができる(3)		
17回目	籐細工を作成することができる(4)		
18回目	紙手工芸を作成することができる(1)		
19回目	紙手工芸を作成することができる(2)		
20回目	紙手工芸を作成することができる(3)		
21回目	紙手工芸を作成することができる(4)		
22回目	作業の計画・準備をすることができる		
23回目	作業の実施・振り返りをすることができる		
準備学習 時間外学習	リハビリテーションに活かすための作業工程を学びます。 作業工程を十分理解するために、基本的な制作過程の習得のために準備する必要があります。		
評価方法	レポート(50%) 課題成果(50%)	評価方法はGPA制度となります	作業療法基礎となる作業活動の実践・分析を経験します。
受講生への メッセージ	作業の体験をしながら、作業の特徴や治療的応用について学びます。考えながら制作をしてください。 作業の計画では、実際の臨床現場を意識しながら計画建てをしてください。		
【使用教科書・教材・参考書】			
教科書:なし			
参考書:作業-その治療的応用 改訂第2版. 協同医書出版社. 作業療法学全書 改訂第3版 第2巻 基礎作業学			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	作業管理学 (Management Studies of OT)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	佐藤 嘉晃
学科	作業療法科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	火曜・水曜 ・ 1限

【授業の学習内容】

管理マネジメントの考え方を学び、組織運営・職場管理について身につける。

※実務者経験：1990年～1997年 尾張温泉リハビリかえ病院で臨床業務に従事。1997年～国立療養所東名古屋病院附属リハビリテーション学院 他校で学科長職で管理業務に従事

【到達目標】

- ①作業療法に関連する法律や制度について説明できる。
- ②作業療法部門の組織における位置づけを説明できる。
- ③作業療法における職業倫理について説明することができる。
- ④作業療法における管理運営について説明することができる。

授業計画・内容			
1回目	作業療法におけるマネジメントとは		
2回目	作業療法を取り巻く組織について		
3回目	作業療法の役割と職域について		
4回目	作業療法の職業倫理①		
5回目	作業療法の職業倫理②		
6回目	リスク管理①(情報)		
7回目	リスク管理②(医療安全)		
8回目	作業療法業務のマネジメント①(環境整備・物品管理)		
9回目	作業療法業務のマネジメント②(時間・ストレス)		
10回目	作業療法業務のマネジメント③(情報)		
11回目	作業療法に関連する制度①(医療保険制度)		
12回目	作業療法に関連する制度②(介護保険制度)		
13回目	作業療法に関連する制度③(障害者福祉制度)		
14回目	作業療法士の人材育成①(作業療法教育課程・臨床実習)		
15回目	作業療法士の人材育成②(卒後教育・生涯教育)		
16回目	試験		
準備学習 時間外学習	配布された教科書や資料は授業最終回までに全て目を通しておいください。		
評価方法	1. 定期試験100(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	本科目は、作業療法における管理・運営について講義を中心に進め、 筆記試験にて成績を判定する。
受講生への メッセージ	作業療法士として働くうえで、自分自身のマネジメントは重要な課題となる。 講義の中では、自分自身のマネジメントについて考える課題を実施する予定。		
【使用教科書・教材・参考書】			
参考資料:大庭潤平 編):作業療法管理学入門. 医歯薬出版株式会社.			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	身体機能評価学 (Evaluate Physical Function)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	植村 篤志
学科	作業療法科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期
コース	昼間 I 部					曜日・時限	火曜 ・ 1.2限
【授業の学習内容】 第1章 オリエンテーション、意識、バイタルサイン 第2章 知覚(感覚)検査 第3章 反射検査、姿勢反射検査 第4章 筋緊張検査、協調性検査 第5章 形態計測、脳神経検査 第6章 上肢機能検査 第7章 関節可動域(ROM)測定 第8章 筋力検査(MMT) 注)講義の順番は【身体機能評価学 実習】の進行に合わせて前後する場合があります ※実務者経験:2012年に作業療法士免許を取得し、京都民医連第二中央病院(京都市)および五条川リハビリテーション病院(愛知県清須市)にて約10年勤務。身体障害・老年期障害を中心として入院(急性期～回復期～療養)や通所リハに従事。臨床業務のほか実習指導、新人教育、地域事業や士会活動などにも携わり、2022年3月より本学の専任教員となる。							
【到達目標】 ・身体機能に関わる作業療法評価法を習得する。 ・各種評価法を理解し、説明できるようになる。 ・対象者の状況に合わせて、適切な作業療法評価を選択し、方針を立てられるようになる。 ・各種評価法を通じて、対象者の生活機能や障害像を正確に把握できるようになる。							

授業計画・内容			
1回目	身体機能評価の意義・位置づけを理解する。意識、バイタルサインの意義と方法を説明することができる。		
2回目	関節可動域（ROM）測定の意義と方法を説明することができる。		
3回目	関節可動域（ROM）測定の意義と方法を説明することができる。		
4回目	筋力検査（MMT）の意義と方法を説明することができる。		
5回目	筋力検査（MMT）の意義と方法を説明することができる。		
6回目	知覚（感覚）検査の意義と方法を説明することができる。		
7回目	知覚（感覚）検査の意義と方法を説明することができる。		
8回目	反射検査、姿勢反射検査の意義と方法を説明することができる。		
9回目	反射検査、姿勢反射検査の意義と方法を説明することができる。		
10回目	筋緊張検査、協調性検査の意義と方法を説明することができる。		
11回目	筋緊張検査、協調性検査の意義と方法を説明することができる。		
12回目	形態計測、脳神経検査の意義と方法を説明することができる。		
13回目	形態計測、脳神経検査の意義と方法を説明することができる。		
14回目	上肢機能検査の意義と方法を説明することができる。		
15回目	上肢機能検査の意義と方法を説明することができる。		
16回目	試験		
準備学習 時間外学習	作業療法評価に関する知識・理解を定着させるためには、予習や復習が必要となります。（特に、日常的な復習が求められます） また、授業内容に対するレポート課題がでることがあります。		
評価方法	小テスト （20%） 定期試験 （80%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	身体機能の評価法について学びます。
受講生への メッセージ	本科目は、実技や治療学、あるいは実習の前段階となる重要な位置づけにあります。評価は、対象者を深く知り、理解することです。面接や観察、検査・測定などの評価法を着実に習得することで、対象者の生活機能および障害像に関する情報を収集・解釈・統合したり、効果的な治療計画立案や作業療法介入へ繋げたりできるようにしましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版 医学書院			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	身体機能評価学 実習 (Practical Evaluate Physical Function)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	植村 篤志
学科	作業療法科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	45 (1)	開講区分	前期
コース	昼間 I 部					曜日・時限	火曜 ・ 3限

【授業の学習内容】

第1章 意識、バイタルサイン 第2章 形態計測、脳神経検査 第3章 関節可動域測定
 第4章 筋力検査 第5章 知覚検査 第6章 反射検査、姿勢反射検査
 第7章 筋緊張検査、協調性検査 第8章 上肢機能検査

※実務者経験(植村): 2012年に作業療法士免許を取得。京都民医連第二中央病院病院(京都市)、五条川リハビリテーション病院(愛知県清須市)にて約10年勤務。入院(急性期～回復期～療養)や通所リハに従事。実習指導、新人教育、地域事業や士会活動などにも携わり、2022年3月より本学の専任教員となる。

【到達目標】

- ・身体機能に関わる作業療法評価法を習得する。
- ・各種評価法を適切な手順、方法で実施できる。
- ・治療・援助を必要とする対象者に対して適切な作業療法を選択し導入するための方針を得ることができるようになる。

授業計画・内容			
1回目	関節可動域(上肢・下肢)を計測することができる。意識、バイタルサインを計測することができる。		
2回目	関節可動域(頸部・体幹)を計測することができる。		
3回目	ROM総復習		
4回目	形態計測を計測することができる。		
5回目	MMT(上肢)を計測することができる。		
6回目	ROM実技試験		
7回目	MMT(上肢)を計測することができる。		
8回目	MMT(下肢)を計測することができる。		
9回目	MMT(頸部・体幹)を計測することができる。		
10回目	MMT総復習		
11回目	MMT実技試験		
12回目	知覚検査および反射(腱反射・病的反射)を実施することができる。		
13回目	知覚検査および反射(腱反射・病的反射)を実施することができる。		
14回目	知覚検査および反射(腱反射・病的反射)を実施することができる。		
15回目	知覚検査および反射(腱反射・病的反射)総復習		
16回目	知覚検査および反射(腱反射・病的反射)実技試験		
17回目	脳神経・上肢機能検査(STEF)を実施することができる		
18回目	脳神経・上肢機能検査(STEF)を実施することができる		
19回目	脳神経・上肢機能検査(STEF)総復習		
20回目	脳神経・上肢機能検査(STEF)実技試験		
21回目	ブルンストロームステージ、協調性、姿勢反射を実施することができる		
22回目	ブルンストロームステージ、協調性、姿勢反射を実施することができる		
23回目	ブルンストロームステージ、協調性、姿勢反射 実技試験		
準備学習 時間外学習	作業療法評価方法を習得します。基本的な知識が身についていない場合、予習が復習になります。また、作業療法評価について理解を深めるためにレポート課題が随時あります。		
評価方法	実地試験(90%) 授業態度など(10%)	評価方法はGPA制度となります	身体機能の評価法の技術を学び実践します。
受講生への メッセージ	2年生の評価実習に関わる主要な科目になります。ぜひ一緒に習得しましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】			
標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版 医学書院			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	認知・精神機能評価学 (Evaluate Cognitive and Mental Function)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	横山 剛 三輪 陽子
学科	作業療法科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期
コース	昼間 I 部					曜日・時限	水曜・1.2限、木曜・1.2限

【授業の学習内容】

精神・認知機能に関する作業療法評価の知識や技術を習得する。

※実務者経験：(横山)1992年に作業療法士の資格を取得。1992～1998年まで成増厚生病院、1998～2001年まで笠寺精治療病院にて勤務。2001年～現在、専門学校愛知医療学院を経て愛知医療学院短期大学において精神障害領域の作業療法科目をを中心に授業担当している

※実務者経験：(三輪)2000年に作業療法士免許を取得。老人保健施設、整形外科クリニック、訪問看護ステーションにて訪問リハビリテーションに携わってきた

【到達目標】

1. 精神・認知機能の作業療法評価に必要な知識を述べることができる。
2. 高次脳機能評価の例を挙げることができる。
3. 精神機能評価の例を挙げることができる。
4. 各評価の特徴を述べることができる。

授業計画・内容			
1回目	精神機能作業療法評価学の基礎について説明することができる		
2回目	精神機能作業療法における情報収集について説明することができる		
3回目	精神機能作業療法における観察法と面接法について説明することができる①		
4回目	精神機能作業療法における観察法と面接法について説明することができる②		
5回目	精神機能作業療法における検査法について説明することができる①		
6回目	精神機能作業療法における検査法について説明することができる②		
7回目	精神機能作業療法における検査法について説明することができる③		
8回目	集団における評価について説明することができる		
9回目	高次脳機能と脳機能の関連について説明することができる		
10回目	意識、見当識、知能の障害における検査法と留意点について説明することができる		
11回目	記憶障害における検査法と留意点について説明することができる		
12回目	注意障害における検査法と留意点について説明することができる		
13回目	半側空間無視における検査法と留意点について説明することができる		
14回目	失認、失行における検査法と留意点について説明することができる		
15回目	失語、遂行機能障害における検査法と留意点について説明することができる		
16回目	試験		
準備学習 時間外学習	初めて聞く用語が登場してくると思いますのであらかじめテキストを予習してくると理解が進みます。試験前だけでなく毎回復習をしてください。		
評価方法	定期試験（100%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	認知・精神機能の評価法について学びます。
受講生への メッセージ	自身の行動に置き換えながら、高次脳機能・精神機能の特徴について知識を深めていきましょう。 沢山の検査が出てきます。その特性により類別しながら、学んでいきましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】			
石合純夫：高次脳機能障害学 第3版. 医歯薬出版株式会社. 能登真一ら 監）：標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第2版. 医学書院			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	認知・精神機能評価学 実習 (Practical Evaluate Cognitive and Mental Function)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	田口真司・三輪 陽子
学科	作業療法科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	45 (1)	開講区分	前期
コース	昼間 I 部					曜日・時限	月曜・1.2限、火曜・1.2限

【授業の学習内容】

精神・認知機能に関する作業療法評価の知識や技術を習得する。

※実務者経験：(田口)2000年に作業療法士の資格を取得。2000年～2005年まで久田病院に勤務。2005年～2012年日本医療福祉専門学校にて精神領域の科目を担当。2012年より矢作川病院に勤務しながら中部大学にて臨床准教授として教育に携わる。

※実務者経験：(三輪)2000年に作業療法士免許を取得。老人保健施設、整形外科クリニック、訪問看護ステーションにて訪問リハビリテーションに携わってきた。

【到達目標】

1. 精神・認知機能の作業療法評価の特性を述べるができる。
2. 精神機能評価の項目を挙げ、評価方法を述べるができる。
3. 観察評価の視点を説明できる。
4. 高次脳機能評価の例を挙げ、実施できる。

授業計画・内容			
1回目	オリエンテーションを実施することができる。		
2回目	精神障害分野の評価を分類することができる。		
3回目	観察演習を実施することができる(1)		
4回目	観察演習を実施することができる(2)		
5回目	観察演習を実施することができる(3)		
6回目	箱作り法の評価を列挙することができる。		
7回目	事例演習を実施することができる(1)		
8回目	事例演習を実施することができる(2)		
9回目	事例演習を実施することができる(3)		
10回目	1～9のレポートを修正することができる。		
11回目	高次脳機能評価について説明することができる。		
12回目	MMSEの評価を理解し実施することができる。		
13回目	HDS-Rの評価を理解し実施することができる。		
14回目	三宅式記銘力検査の評価を理解し実施することができる。		
15回目	ベントン視覚記銘検査の評価を理解し実施することができる。		
16回目	BITの評価を理解し実施することができる。		
17回目	TMTの評価を理解し実施することができる。		
18回目	コース立方体の評価を理解し実施することができる。		
19回目	VPSTの評価を理解し実施することができる。		
20回目	BADSの評価を理解し実施することができる。		
21回目	SLTAの評価を理解し実施することができる。		
22回目	その他(WAIS等)の評価を理解し実施することができる。		
23回目	各評価の評価方法を確認し、留意点を述べることができる。		
24回目	実技試験		
準備学習 時間外学習	実技科目は何度も実施することにより身に付きます。積極的に自己学習を行ってください。		
評価方法	レポート(50%) 実地試験(50%)	評価方法はGPA制度となります	認知・精神機能の評価法の技術を学び実践します。
受講生への メッセージ	【精神領域】 作業治療学 精神障害で得た知識の、臨床的活用方法を学びます。グループワークなども展開しますので、黙っていても時間は過ぎます。しかし、知識は身につけません。主体的に講義に参加してください。		
	【認知領域】 高次脳機能障害を呈する対象者に必要な評価の計画を立案し、実際に正しい手法で評価を行い、正確に記録して採点できるまでを目標としています。評価を正しく実施するためには、繰り返し練習することが必要です。講義時間内に限らず、積極的に練習を積み重ねてください。		
【使用教科書・教材・参考書】 山根寛 著):精神障害と作業療法 第3版. 三輪書店. 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版. 医学書院			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	作業治療学 概論 (Introduction to Treatment Methodology)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	横山 純子
学科	作業療法科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	前期
コース	昼間 I 部					曜日・時限	月曜 ・ 1,2限
【授業の学習内容】 作業療法が対象とする作業について知識を深め、作業遂行が可能となる(作業ができるようになる)にはどのような条件が必要となるかを講義およびディスカッションを通じて学習する。 ※実務者経験:1992年4月～2018年3月まで一般病床、回復期病棟、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション施設等様々な分野において主に身体機能領域に従事。							
【到達目標】 1. 作業療法が対象とする作業について説明できる。 2. 作業遂行が可能となるとはどのようなことか説明できる。 3. 作業遂行が可能になるための介入過程を説明できる。							

授業計画・内容			
1回目	作業について理解し説明することができる。		
2回目	作業療法の適応の範囲を説明することができる(1)		
3回目	作業療法の適応の範囲を説明することができる(2)		
4回目	作業遂行について説明することができる。		
5回目	作業遂行技能の評価方法を列挙することができる。		
6回目	作業遂行技能の評価方法を列挙することができる。		
7回目	作業遂行技能介入の考え方を理解し説明することができる。		
8回目	作業遂行技能介入の考え方を理解し説明することができる。		
9回目	試験		
準備学習 時間外学習	簡単な事前課題を提示する。講義は、事前課題をもとに進めるため、必ず事前課題を実施したうえで参加すること。		
評価方法	1. 定期試験50(%) 2. レポート50(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	作業療法実践の概要について学びます。
受講生への メッセージ	作業療法士の介入目的は、対象者の作業遂行が可能となる事である。作業遂行に関して学ぶことによって、今後学んでいく講義が、作業遂行のどの過程につながるかを考えられるようになることを期待する。		
【使用教科書・教材・参考書】			
作業療法学全書 改定第3版 第4巻 作業療法治療学1 身体障害 協同医書出版社			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	作業治療学 演習 I (Seminar to OT Methodology I)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	植村 篤志
学科	作業療法科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期
コース	昼間 I 部					曜日・時限	水曜 ・ 3.4限

【授業の学習内容】

中枢神経疾患および整形外科系疾患の治療技法を実施し、作業療法技術を身につける。
 ※実務者経験：2012年に作業療法士免許を取得。あすかい病院(京都市)、五条川リハビリテーション病院(愛知県清須市)にて約10年勤務。身体障害・老年期障害を中心として入院(急性期～回復期～療養)や通所リハに従事。臨床業務のほか実習指導、新人教育、地域事業や士会活動などにも携わり、2022年3月より本学の専任教員となる。

【到達目標】

本科目は、作業療法の治療技法に関する演習を中心に講義を進める

- ①身体障害の作業療法における治療理論を説明できる。
- ②身体障害の作業療法における治療技術を模倣できる。
- ③主要な疾患(脳血管障害、脊髄損傷、大腿骨近位部骨折)における具体的な治療計画の立案ができる。

授業計画・内容			
1回目	イントロダクション・総論 治療学演習とは(リハ中止基準、ボディメカニクス、運動学習、物理療法etc.)		
2回目	関節可動域に対する介入について説明できる。		
3回目	関節可動域に対する介入について模倣できる。		
4回目	筋力・筋持久力・廃用症候群に対する介入を説明できる。		
5回目	筋力・筋持久力・廃用症候群に対する介入を模倣できる。		
6回目	感覚障害・筋緊張異常・不随意運動・協調性障害に対する介入について説明できる。		
7回目	感覚障害・筋緊張異常・不随意運動・協調性障害に対する介入について模倣できる。		
8回目	脳血管疾患の介入について説明できる。		
9回目	脳血管疾患の介入について模倣できる。		
10回目	脊髄損傷の介入について説明できる。		
11回目	脊髄損傷の介入について模倣できる。		
12回目	整形疾患(主として大腿骨近位部骨折)の介入について説明・模倣できる。		
13回目	整形疾患(主として大腿骨近位部骨折)の介入について説明・模倣できる。		
14回目	中枢神経疾患の事例を通して治療計画の立案ができる。		
15回目	中枢神経疾患の事例を通して治療計画の立案ができる。		
16回目	試験		
準備学習 時間外学習	講義の中では、病態や評価にもとづく治療介入について講義を行う。 その際には神経内科学で学んだ中枢神経疾患や評価学の復習が不可欠となる。		
評価方法	1. 課題達成度・ 授業貢献度 50(%) 2. 期末試験 50(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	評価、作業療法の治療について学び、事例検討や実技実習などを経験します。
受講生への メッセージ	作業療法の対象者は、障害を持つことによって生活スタイルの再構築が必要となることが多い。 本講義では、再構築のプロセスのにおいて身体機能に対する介入を中心に講義していく。		
【使用教科書・教材・参考書】			
日本作業療法士協会 監) 菅原洋子 編): 作業療法学全書 改訂第3版 第4巻 作業治療学1身体障害. 協同医書出版社.			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	身体機能治療学 I (Physical Function Treatment Methodology I)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	増尾 明・横山 純子
学科	作業療法科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
コース	昼間 I 部					曜日・時限	火曜・1,2限

【授業の学習内容】

教科書や配布資料によって、中枢神経疾患に対する評価から治療に至る過程について講義を行う。各疾患の臨床像を理解し、その生活機能障害に対し教科書や配布資料によって、中枢神経疾患に対する評価から治療に至る過程について講義を展開する。

※実務経験:【増尾】2007年に作業療法士免許を取得。回復期病院、訪問看護ステーションで、主に身体障害者領域に従事。【横山】1992年4月～2018年3月まで一般病床、回復期病棟、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション施設において主に身体障害者領域に従事。

【到達目標】

本科目は、脳血管疾患など中枢神経疾患について、障害像、評価方法、治療・訓練方法を学習する。

1. 身体障害の作業療法の治療理論を説明できる。
2. 中枢疾患による障害の特徴を説明できる。
3. 中枢疾患に対する作業療法の基本的な考え方を説明できる。

授業計画・内容			
1回目	脳血管疾患の病態について説明できる。		
2回目	脳血管疾患の作業療法計画が立案できる。		
3回目	頭部外傷の病態について説明できる。		
4回目	頭部外傷の作業療法計画が説明できる。		
5回目	パーキンソン病の病態を説明できる。		
6回目	パーキンソン病の作業療法計画が説明できる。		
7回目	脊髄小脳変性症の病態について説明ができる		
8回目	脊髄小脳変性症の作業療法計画が説明できる		
9回目	ギランバレー症候群の病態について説明できる		
10回目	ギランバレー症候群の作業療法計画が説明できる		
11回目	筋ジストロフィーの病態について説明することができる		
12回目	筋ジストロフィーの作業療法計画が説明できる		
13回目	筋萎縮性側索硬化症の病態について説明できる		
14回目	筋萎縮性側索硬化症の作業療法について説明することができる		
15回目	多発性硬化症の病態と作業療法計画について説明することができる		
16回目	試験		
準備学習 時間外学習	講義の中では、病態について講義を行う。その際には神経内科学で学んだ中枢神経疾患の復習が不可欠。		
評価方法	1. 定期試験100(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	中枢疾患の作業療法を計画する上で必要な基礎知識を学びます。
受講生への メッセージ	中枢神経系の疾患を持つ対象者は、障害を持つことによって生活スタイルの再構築が必要となることが多い。本講義では、再構築のプロセスのにおいて身体機能に対する介入を中心に講義していく。		
【使用教科書・教材・参考書】			
日本作業療法士協会 監) 菅原洋子 編): 作業療法学全書 改訂第3版 第4巻 作業治療学1身体障害. 協同医書出版社.			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	身体機能治療学Ⅱ (Physical Function Treatment MethodologyⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	増尾 明・横山 純子
学科	作業療法科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	火曜・1.2限・木・1.2限
【授業の学習内容】							
整形外科系障害に対する評価項目・治療技術について学習する。整形外科理解を深めるために、解剖学的根拠を示しながら講義を展開する。 ※実務経験:【増尾】2007年に作業療法士免許を取得。回復期病院、訪問看護ステーションで、身体障害者領域に従事。 【横山】1992年4月～2018年3月、一般病床、回復期病棟や地域のリハビリテーション施設において身体障害者領域に従事。							
【到達目標】							
1. 整形外科系疾患を理解・把握する。 2. 整形外科系疾患の評価について理解し、説明できる。 3. 整形外科系疾患の治療について理解し、説明できる。							
授業計画・内容							
1回目	脊髄損傷の病態について説明できる						
2回目	脊髄損傷の病態について説明できる。						
3回目	脊髄損傷の作業療法計画について説明できる。						
4回目	脊髄損傷の作業療法計画について説明できる。						
5回目	骨折の作業療法について説明ができる。						
6回目	骨折の作業療法について説明ができる。						
7回目	腱損傷の作業療法について説明できる。						
8回目	末梢神経損傷の作業療法について説明できる。						
9回目	末梢神経損傷の作業療法計画について説明できる。						
10回目	関節リュウマチの作業療法について説明できる。						
11回目	熱傷の作業療法について説明することができる						
12回目	重症筋無力症の作業療法について説明することができる						
13回目	重症筋無力症の作業療法について説明することができる						
14回目	ニューロパチーの作業療法について説明することができる						
15回目	筋炎の作業療法について説明することができる						
16回目	試験						
準備学習 時間外学習	解剖学的根拠を示しながら講義をすすめていくため、解剖学の復習が不可欠である。 また、整形外科疾患の病態の知識が必要となるため、整形外科の復習が必要。						
評価方法	1. 定期試験100(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	脊髄損傷・末梢神経障害・手外科の特徴、評価、治療について学び、症例検討や実技実習などを経験します。				
受講生への メッセージ	臨床実習Ⅰで見学した整形外科疾患の場面を思い出しながら受講するとイメージが付きやすい。 講義では、様々な治療法の紹介をする。なぜその治療法が選択されるのか？根拠を考えながら講義に参加してほしい。						
【使用教科書・教材・参考書】							
日本作業療法士協会 監) 菅原洋子 編): 作業療法学全書 改訂第3版 第4巻 作業治療学1身体障害 協同医書出版社。							

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	精神機能治療学 I (Psychological Function OT Methodology I)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	田口 真司
学科	作業療法科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
コース	昼間 I 部					曜日・時限	月曜 ・ 1.2限

【授業の学習内容】

精神科領域における作業療法について学ぶ。さらに主要疾患の障害の特性、関連する治療を習得する。
 ※実務者経験：2000年に作業療法士の資格を取得。2000年～2005年まで久田病院に勤務。2005年～2012年日本医療福祉専門学校にて精神領域の科目を担当。2012年より矢作川病院に勤務しながら中部大学にて臨床准教授として教育に携わる。

【到達目標】

1. 精神疾患の臨床像、疾患特性、作業療法の基礎を理解する。
2. 疾患特性に合致した作業療法評価、治療を説明できる。
3. 各時期の回復過程、作業療法の役割を説明できる。
4. 精神医療の歴史を説明できる。

授業計画・内容			
1回目	精神障害と作業療法について説明することができる(1)		
2回目	精神障害と作業療法について説明することができる(2)		
3回目	精神医療の歴史について説明することができる(1)		
4回目	精神医療の歴史について説明することができる(2)		
5回目	作業療法の治療・支援構造について説明することができる(1)		
6回目	作業療法の治療・支援構造について説明することができる(2)		
7回目	統合失調症スペクトラムについて説明することができる。		
8回目	統合失調症の作業療法について説明することができる(1)		
9回目	統合失調症の作業療法について説明することができる(2)		
10回目	統合失調症の作業療法について説明することができる(3)		
11回目	統合失調症の作業療法について説明することができる(4)		
12回目	気分障害の作業療法について説明することができる(1)		
13回目	気分障害の作業療法について説明することができる(2)		
14回目	気分障害の作業療法について説明することができる(3)		
15回目	気分障害の作業療法について説明することができる(4)		
準備学習 時間外学習	精神科作業療法の概念・治療・支援は国家試験においても多く出題されます。 事例を含めての見直しをしておいてください。		
評価方法	定期試験(100%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	精神科作業療法の概念、治療・援助構造について学びます。 また、代表的な精神疾患の特徴、評価、治療についても学びます。
受講生への メッセージ	教科書を中心に講義を進めますので、重要ですが退屈です。 重要さは、臨床に出てから気付きます。 実習中はもとより、臨床に出てからも立ち戻る教科書作りも講義内の大切な目的です。ラインマーカーや、インデックス、付箋を用いて、オリジナルの教科書を作り、知識定着に役立ててください。		

【使用教科書・教材・参考書】

山根寛 著)：精神障害と作業療法 新版。三輪書店。

【参考書】

日本作業療法士協会 監) 富岡詔子、他編)：作業療法学全書 改訂第3版 第5巻 作業治療学2 精神障害。協同医書出版社。

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	精神機能治療学Ⅱ (Psychological Function OT Methodology Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	横山 剛
学科	作業療法科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	水曜・1,2限

【授業の学習内容】

精神科領域における作業療法について学ぶ。さらに代表的な精神疾患の障害の特性、関連する治療について修得する。
 ※実務者経験：1992年に作業療法士の資格を取得。1992～1998年まで成増厚生病院、1998～2001年まで笠寺精治療病院にて勤務。
 2001年～現在、専門学校愛知医療学院を経て愛知医療学院短期大学において精神障害領域の作業療法科目をを中心に授業担当している。

【到達目標】

1. 精神疾患の臨床像および疾患特性を理解し、作業療法について説明することができる。
2. 作業療法における留意点を説明することができる。

授業計画・内容		
1回目	神経症圏の作業療法について説明することができる①	
2回目	神経症圏の作業療法について説明することができる②	
3回目	摂食障害の作業療法について説明することができる①	
4回目	摂食障害の作業療法について説明することができる②	
5回目	物質関連障害の作業療法について説明することができる①	
6回目	物質関連障害の作業療法について説明することができる②	
7回目	物質関連障害の作業療法について説明することができる③	
8回目	パーソナリティ障害の作業療法について説明することができる①	
9回目	パーソナリティ障害の作業療法について説明することができる②	
10回目	パーソナリティ障害の作業療法について説明することができる③	
11回目	発達障害の作業療法について説明することができる(自閉症性障害を中心に)①	
12回目	発達障害の作業療法について説明することができる(自閉症性障害を中心に)②	
13回目	精神認知系作業療法の理論・モデル・関連療法について説明することができる①	
14回目	精神認知系作業療法の理論・モデル・関連療法について説明することができる②	
15回目	精神認知系作業療法の理論・モデル・関連療法について説明することができる③	
準備学習 時間外学習	初めて聞く用語が登場してくると思いますのであらかじめテキストを予習してくると理解が進みます。試験前だけでなく毎回復習をしてください。	
評価方法	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%) 評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	代表的な精神疾患の特徴、評価、治療について学びます。
受講生への メッセージ	テキストを中心に授業を進めていきます。できるだけなじみがあるような用語を使用するなどして説明できるように頑張っていきましょう。	
【使用教科書・教材・参考書】		
山根寛 著):精神障害と作業療法 新版. 三輪書店.		

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	老年期治療学 (Senile Disorders OT Methodology)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	小林 由美
学科	作業療法科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
コース	昼間 I 部					曜日・時限	火曜 ・ 3限

【授業の学習内容】

老年期に起こりやすい疾患および合併症を抱えた対象者に対する作業療法について学ぶ。さらに、病院や施設での認知症を含めた高齢者の作業や日常生活、またそれらに対する作業療法の介入について習得する。
 ※実務者経験：2000年4月に作業療法士を取得し、医療法人 光生会にて回復期、老年期、地域の作業療法に関わる。また2005年に介護予防運動指導員として地域の予防活動に参加する。2008年より専門学校教員として講義を行いながら、整形外科病院やデイサービスで臨床に携わる。

【到達目標】

1. 日本の高齢者の現状と特徴について理解する。
2. 予防保険医学について説明できる。
3. 廃用症候群について説明できる。
4. 高齢者に特徴的な認知症の作業療法について理解する。
5. 高齢者の生活の場についての知識を深め、説明できる。
6. 高齢者をとりまく環境と健康について説明できる。

授業計画・内容			
1回目	老年期作業療法の目的について説明することができる。		
2回目	老年期作業療法の目的について説明することができる。		
3回目	老年期の変化について説明することができる。		
4回目	老年期の変化について説明することができる。		
5回目	摂食嚥下障害の基礎・評価治療について説明することができる。		
6回目	摂食嚥下障害の基礎・評価治療について説明することができる。		
7回目	排泄障害の基礎・評価治療について説明することができる。		
8回目	排泄障害および睡眠障害の基礎・評価治療について説明することができる。		
9回目	老年期の整形疾患について説明することができる。		
10回目	老年期の整形疾患について説明することができる。		
11回目	介護予防についての基礎・評価について説明することができる。		
12回目	認知症の基礎・評価治療について説明することができる。		
13回目	認知症の基礎・評価治療について説明することができる。		
14回目	認知症の基礎・評価治療について説明することができる。		
15回目	認知症の基礎・評価治療について説明することができる。		
	試験		
準備学習 時間外学習	毎回、確認プリントを配布します。確認プリントの内容を把握し、試験に取り組んでください。 確認プリントは授業時間内では行いません。時間外学習として活用ください。		
評価方法	定期試験(100%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	高齢者において特徴的な症状や廃用症候群、認知症などの評価、治療について学びます。
受講生への メッセージ	高齢者によくおこる疾患や障害および高齢者をとりまく環境についての知識を深め、残りの人生をその人らしく生きるための 支援について一緒に考えましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】			
老年期の作業療法 改訂第3版 三輪書店			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	高次脳機能治療学 (Higher Brain Dysfunctional OT Methodology)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	坪井 理佳
学科	作業療法科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
コース	昼間 I 部					曜日・時限	金曜 ・ 1.2限

【授業の学習内容】

- ・脳の機能について習得する。
- ・高次脳機能障害(注意障害、記憶障害、失語、失行、失認、半側空間無視、遂行機能障害など)の病巣と症状を習得する。
- ・高次脳機能障害の臨床像(ADLや社会活動にどのような影響を与えるか)、評価、治療について習得する。

※実務者経験: 2003年に作業療法士免許を取得し、身体障害者領域のリハビリテーションに携わってきた。高次脳機能障害やパーキンソン病に関する、学会発表や学術論文掲載の実績が多数ある。

【到達目標】

1. 脳の機能を説明できる。
2. 高次脳機能障害の病巣と症状を説明できる。
3. 高次脳機能障害の評価、治療につなげる基本的な考え方を説明できる。

授業計画・内容			
1回目	脳機能について理解し説明することができる。		
2回目	注意と注意障害について理解し説明することができる。		
3回目	注意と注意障害について理解し説明することができる。		
4回目	記憶と記憶障害について理解し説明することができる。		
5回目	言語と失語症について理解し説明することができる。		
6回目	視覚認知と失認について理解し説明することができる。		
7回目	半側空間無視について理解し説明することができる。		
8回目	半側空間無視について理解し説明することができる。		
9回目	行為と失行について理解し説明することができる。		
10回目	行為と失行について理解し説明することができる。		
11回目	遂行機能について理解し説明することができる。		
12回目	事例について検討することができる。		
13回目	事例について検討することができる。		
14回目	事例について検討することができる。		
15回目	1～14の復習をし試験準備をすることができる。		
16回目	試験		
準備学習 時間外学習	高次脳機能障害の特徴や検査法について近年多く国家試験にて出題されています。講義外の時間を使用して復習してください。		
評価方法	定期試験(100%)	評価方法はGPA制度となります	高次脳機能障害の特徴、評価、治療について学び、症例検討や実技実習などを経験します。
受講生への メッセージ	本科目で目指す知識水準はこのレベルとします。 1)臨床実習に通用する 2)国家試験に合格できる		
【使用教科書・教材・参考書】 高次脳機能障害リハビリテーションの流れが見える　羊土社			
【参考書】 河村満 編)：急性期から取り組む高次脳機能障害リハビリテーション　QOL向上のために今すぐできる日常生活援助。メディカ出版。 日本作業療法士協会 監)：作業療法学全書 改訂第3版 第8巻 作業治療学5 高次脳機能障害。協同医書出版社。 平山和美 編)：高次脳機能障害の理解と診察。中外医学社。 櫻間 剛 著)国家試験にも臨床にも役立つ！リハビリPT・OT・ST・Dr.のための脳画像の新しい勉強本。 石合純夫：高次脳機能障害学 第3版。医歯薬出版株式会社			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	義肢装具学 (Prosthetics and Orthotics)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	佐藤 嘉晃
学科	作業療法科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	金曜・1.2限

【授業の学習内容】

広範囲の内容になりますが、義肢装具は臨床で医師・理学療法士・義肢装具士と協業することが多いので、作業療法士として必要な基礎知識を中心に本授業の中で扱います。実際の臨床場面では、作業に焦点をあてて装具療法が行われることを理解しながら、授業に臨んでいただけることを期待しています。

※実務者経験：1990年～1997年 尾張温泉リハビリかえ病院で臨床業務に従事。2005年～日本医療福祉専門学校 作業療法科で「義肢装具学」を担当。

【到達目標】

作業療法士として義肢装具を用いた治療を実施することができるようになるために、義肢の構造と適応、装具の種類と適応について学ぶ。またスプリントの製作技法について習得する。

＜SBO(s)＞抜粋

1. 切断 1) 切断の定義を説明することができる 2) 切断の原因を列挙することができる
2. 義肢(義手 義足) 1) 義肢の分類を説明する事ができる 2) 義手の定義を述べる事ができる 3) 義手の構成要素を列挙することができる 4) 義足の定義を述べる事ができる 5) 義足の分類を説明することができる
3. 装具とスプリント 1) 装具の定義を述べる事ができる 2) 装具の分類を説明することができる

授業計画・内容			
1回目	義肢・装具・切断の定義について理解し説明することができる。		
2回目	義手のチェックアウトについて理解し説明することができる。		
3回目	義足のチェックアウトについて理解し説明することができる。		
4回目	電動義手の訓練について説明することができる		
5回目	上下肢装具について理解し説明することができる。		
6回目	疾患別装具について理解し説明することができる。		
7回目	疾患別装具について理解し説明することができる。		
8回目	スプリントの作成を実施することができる。		
9回目	試験		
準備学習 時間外学習	名称・チェックアウトは暗記が多いです。疾患別装具では、疾患の復習をして関連して覚えてください。 また、配布された資料・教科書は全て目を通しておいください。		
評価方法	定期試験(100%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	義肢・装具の機能の知識と評価、およびリハビリテーション医療における プログラムのたて方を学びます。
受講生への メッセージ	装具療法は作業療法の一つの手段です。適切に使用できると手段が増えます。		
【使用教科書・教材・参考書】			
作業療法学全書 作業療法技術学1 義肢装具学 協同医書出版社			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	日常生活活動学 (Activities of Daily Living)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	三輪 陽子
学科	作業療法科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
コース	昼間 I 部					曜日・時限	月曜・3限

【授業の学習内容】

作業療法士は生活全般の活動を支援する職業である。その中でも日常生活活動はすべての人に共通する活動である。私たちが日々当たり前に行っている日常生活活動を振り返り、理解を深めていく。

※実務者経験

2000年4月～2005年8月まで老人保健施設で、以降専門学校教育に携わりながら、整形外科クリニック、訪問リハビリテーションに従事。2001年より12年間にわたり、保健センターの依頼を受け介護予防事業に関わる。

【到達目標】

1. 日々行っている日常生活活動について理解し、説明できる。
2. 正常動作に関して理解を深め、説明できる。
3. 日常生活活動の評価の目的・評価のポイントが説明できる。

授業計画・内容			
1回目	日常生活活動の概念とその範囲について説明できる。		
2回目	自身の日常生活活動を振り返り、理解を深める。		
3回目	日常生活活動と姿勢の関係性を理解する。		
4回目	基本動作の一連の流れを把握し、動作を再現できる。		
5回目	日常生活活動の分析(グループワーク①)		
6回目	日常生活活動の分析(グループワーク②)		
7回目	食事動作の分析を通し、必要な機能や能力、環境等について理解を深める。		
8回目	日常生活活動の分析(グループワーク③)		
9回目	日常生活活動の分析(グループワーク④)		
10回目	日常生活活動の分析(グループワーク⑤)		
11回目	発表 日常生活活動において必要とされる心身機能や活動に影響を与える環境要因を理解し、説明できる。		
12回目	発表 日常生活活動において必要とされる心身機能や活動に影響を与える環境要因を理解し、説明できる。		
13回目	代表的な評価法について理解し、説明できる。		
14回目	精神疾患の日常生活活動について理解しする。		
15回目	まとめ		
16回目	試験		
準備学習 時間外学習	GWに課題を出します。楽しみにしてください。		
評価方法	1. 定期試験50(%) 2. 課題成果・出席率50(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	ADLの概念を理解し、ADL支援を行うための過程を学びます。
受講生への メッセージ	日常生活活動の支援は作業療法士が対象とするすべての疾患に行われます。支援計画を立案する際には、日常生活活動が、どのような動きによって行われているか知る必要があります。日頃、無意識に行っている日常生活活動を見つめなおす機会を作ってください。		
【使用教科書・教材・参考書】			
ADLとその周辺 評価・指導・介護の実際 第3版 医学書院 授業内で追加資料を配布			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	日常生活活動 実習 (Prctical Activities of Daily Living)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	三輪 陽子
学科	作業療法科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 (2)	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	月曜/木曜・3.4限
【授業の学習内容】							
日常生活活動で学んだ知識をもとに、授業の前半では、基本動作を中心に障害が及ぼす影響と自立に向けた援助・介助方法について学ぶ。授業後半では、模擬患者に対して、日常生活活動の支援計画の立案を行い、成果を発表する。 ※実務者経験：2000年4月～2005年8月まで老人保健施設で、以降専門学校教育に携わりながら、整形外科クリニック、訪問リハビリテーションに従事。2001年より12年間にわたり、保健センターの依頼を受け介護予防事業に関わる。							
①疾患別の日常生活活動に対する介助方法を学び、介助ができる。 ②疾患別の自助具・支援機器について学び、疾患の残存能力に合わせて選択できる。 ③模擬患者に対して、日常生活活動の支援計画の立案ができる。							
授業計画・内容							
1. 2回目	日常生活活動の概念とその範囲について説明できる。						
3. 4回目	ADLの評価を実施できる。						
5. 6回目	日常生活活動の動作分析(食事・更衣・整容)						
7. 8回目	日常生活活動の動作分析(排泄・入浴)						
9.10回目	日常生活関連活動の動作分析(家事動作)						
10.11回目	疾患別日常生活活動に対する支援方法について模倣できる(脳血管疾患 食事・更衣・整容)						
12.13回目	疾患別日常生活活動に対する支援方法について模倣できる(脳血管疾患 食事・更衣・整容)						
14.15回目	疾患別日常生活活動に対する支援方法について模倣できる(脳血管疾患 排泄・入浴)						
16.17回目	疾患別日常生活活動に対する支援方法について説明できる(脳血管疾患 排泄・入浴)						
18.19回目	疾患別日常生活活動に対する支援方法について説明できる(脊髄損傷)						
20.21回目	疾患別日常生活活動に対する支援方法について説明できる(上肢切断)						
22.23回目	疾患別日常生活活動に対する支援方法について説明できる(下肢切断)						
24.25回目	疾患別日常生活活動に対する支援方法について説明できる(進行性筋ジストロフィー)						
26.27回目	疾患別日常生活活動に対する支援方法について説明できる(パーキンソン病)						
28.29回目	疾患別日常生活活動に対する支援方法について説明できる(関節リウマチ)						
30.31回目	疾患別日常生活活動関連活動に対する支援方法について説明できる。(買い物)						
32.33回目	疾患別日常生活活動関連活動に対する支援方法について実施できる。(買い物)						
34.35回目	疾患別日常生活活動関連活動に対する支援方法について説明できる。(調理)						
36.37回目	疾患別日常生活活動関連活動に対する支援方法について実施できる。(調理)						
38.39回目	疾患別日常生活活動関連活動に対する支援方法について実施できる。(調理)						
40.41回目	MTDLPIについて説明できる						
42.43回目	MTDLPIについて模倣できる						
44.45回目	MTDLPIについて実施することが出来る						
準備学習 時間外学習	世の中には多くの便利グッズ売られている。それらの便利グッズは、様々な疾患へ応用できる。日々の生活の中で、それらの便利グッズがどの疾患にどのように応用できるか考え、アンテナを張り、情報収集に努めてほしい。						
評価方法	1. 出席率50(%) 2. 課題成果50(%)	評価方法はGPA制度となります	ADL実施時の、障害がおよぼす影響とそれに対する考察、それら自立に向けた援助、介助方法について学ぶ。				
受講生への メッセージ	我々作業療法士は対象者に適した自助具や支援機器の選定、環境の調整を行っていかねばならない。対象者の置かれている生活スタイルは様々である。対象者の様々な生活スタイルに合わせた選定の過程においては、既存の方法では対応できないケースも多い。この授業を通して、既存のものにとらわれず、新たな支援方法のアイデアが生まれることを期待する。						
【使用教科書・教材・参考書】							
作業療法学全書 作業療法技術学3 日常生活活動 協同医書出版社							

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	生活支援機器学 (Assistive Technology with Support Equipment)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	磯貝 理栄
学科	作業療法科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期
コース	昼間 I 部					曜日・時限	木曜 ・ 1.2限

【授業の学習内容】

障害をもつ作業療法対象者の生活を支援するためには、適切な道具や福祉用具の活用と住環境整備が必要不可欠である。本講義では障害のある人が、自らの意思でやりたいことができる生活を達成するために必要な道具や福祉用具の実践について学ぶ。

※実務者経験：1993年に作業療法士免許を取得し、総合病院にて急性期・回復期、訪問看護ステーションにて訪問リハビリテーションに携わってきた。また、日本作業療法士協会の福祉用具研修の運営に携わっている。

【到達目標】

1. 福祉用具の定義や概念を理解する
2. 作業療法と福祉用具支援技術の関係について理解する
3. 福祉用具に関する制度を理解する
4. ADL、IADLで用いられる福祉用具の特徴と使用方法について理解する
5. 福祉用具に関する情報収集、福祉用具に関わる他職種との連携について理解する

授業計画・内容

1回目	福祉用具の定義、歴史、関連する制度について説明することができる。		
2回目	補装具支給制度と介護保険制度に関する種目を列挙し説明することができる。		
3回目	移動関連用具を列挙し説明することができる。		
4回目	移動関連用具の調整をすることができる。		
5回目	ベッド関連用具を列挙し説明することができる。		
6回目	移乗関連用具を列挙し説明することができる。		
7回目	移乗関連用具の使い方を説明することができる。		
8回目	移乗関連用具の使い方を説明することができる。		
9回目	排泄・入浴関連用具を列挙し説明することができる。		
10回目	排泄・入浴関連用具を列挙し説明することができる。		
11回目	コミュニケーション関連用具を列挙し説明することができる。		
12回目	自助具について説明することができる。		
13回目	IADL関連用具を列挙し説明することができる。		
14回目	事例を用いて、福祉用具の導入検討ができる。		
15回目	事例を用いて、福祉用具の導入検討ができる。		
16回目	試験		
準備学習 時間外学習	各障害と福祉用具の適応について説明するため、各疾患の障害像について1年次の内容の予習が必要です。 100円ショップやホームセンターなどに行き、見えそうな用具や材料について調査してください。		
評価方法	1. 定期試験（100%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	障害のある人が、自らの意志でやりたいことができる生活を達成するために必要な道具や福祉用具の実際について学びます。
受講生への メッセージ	作業療法の中で福祉用具は重要な支援技術です。 様々な福祉用具を体験して特徴を知り、より良い生活を過ごしていただくための支援技術を学んでください。		
【使用教科書・教材・参考書】			
日本作業療法士協会 監）：作業療法学全書 改訂第3版 第10巻 福祉用具の使い方，住環境整備．協同医書出版社．			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	地域作業療法学 演習Ⅱ (Seminar Based Rehabilitation and OtⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	作業療法科教員
学科	作業療法科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	水曜 ・ 3.4.限
【授業の学習内容】 地域生活を送る心身機能に障害を持ちながら地域生活を送る人々が多い。そのような人々が地域生活を継続することができるように支えることを地域リハビリテーションといい、作業療法士に求められる役割の一つである。地域リハビリテーションは外来・通所施設・訪問リハビリなど様々な形で提供される。本講義では、その多くの形の中で、通所施設利用者を対象にしたリハビリテーションを現場での実習や演習を通して学んでいく。地域作業療法学 実習Ⅱでは、レクリエーションの実施に必要な知識・技術を理解し、計画、準備、実施する。							
【到達目標】 1.レクリエーションの計画をすることができる 2.実際の現場でレクリエーションの実施ができる							

授業計画・内容		
1回目	オリエンテーション	
2回目	レクリエーションについて理解し説明することができる。	
3回目	レクリエーションについて理解し説明することができる。	
4回目	レクリエーションを立案し準備することができる。	
5回目	レクリエーションを立案し準備することができる。	
6回目	レクリエーションを実施することができる。	
7回目	レクリエーションを実施することができる。	
8回目	レクリエーションを振り返り改善点を列挙することができる。	
9回目	施設にてレクリエーションを実施することができる。	
10回目	施設にてレクリエーションを実施することができる。	
11回目	レクリエーションを振り返り改善点を列挙することができる。	
12回目	施設にてレクリエーションを実施することができる。	
13回目	施設にてレクリエーションを実施することができる。	
14回目	レクリエーションを振り返り改善点を列挙することができる。	
15回目	まとめ	
準備学習 時間外学習	自身でも様々なレクリエーションを探し、計画に活かしてください。 体験、実施の振り返りがとても大切になります。	
評価方法	課題成果(レクリエーションの実施)および情意(意欲・取り組み姿勢・言葉遣い・身だしなみ・態度・出席率など)を含めた総合評価で判断します。	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格
受講生への メッセージ	グループ学習が主になります。グループワークに積極的に参加してください。	
【使用教科書・教材・参考書】		
なし		

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	臨床実習Ⅱ (Clinical Practice Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	臨床実習指導者
学科	作業療法科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	360 (8)	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	月～金曜 ・ 1～4限

【授業の学習内容】

基本的な方針は学外実習で行います。

別々の病院・施設に行き、臨床の作業療法士の指導のもと技術習得を目的とした実習を行います。

技術:「面接」「観察」「検査・測定」の実践

1名もしくは複数の対象者を通して、「面接」「観察」「検査・測定」技術を習得する。

認知・知識:評価結果にもとづいて、問題点をまとめ解釈できる思考

評価結果は、提示いただいたものを用いて、問題点をまとめ焦点化する(可能であれば治療計画まで)「考え方」を教授する

【到達目標】

病院や施設の作業療法の実践を学び、医療を志す学生に必要な行動を身に付ける。また作業療法評価技術を習得し、実践課程(初期評価～計画立案)における考え方を深める。

授業計画・内容

1日目 ～ 180時間 × 施設数	1)職業人としての態度・適正 1:常識的態度や責任のある行動を身につける。 1-1 時間や約束を守る。 1-2 その場にふさわしい服装や身なりを整える。 1-3 礼儀正しい行動をとる。 1-4 公私を区別する。 1-5 守秘義務を果たす。 2:対象者および家族と望ましい人間関係を持つ。 2-1 対象者および家族の訴えを聞く。 3:必要に応じて関連職種と連携をとる。 3-1 職員、関係スタッフの役割を説明する。 4:意欲的に取り組む姿勢(探究心・創造性)を持つ。 4-1 疑問点を挙げる。 4-2 必要に応じて質問する。 4-3 自分の意見を述べる。 2)評価 5:評価計画を立てる。 5-1 評価内容を想起する。 5-2 評価手段を選択する。 5-3 選択した評価手段(情報収集・面接・観察・検査測定)の実施計画を立てる。 5-4 評価手順と期間について計画を立てる。 6:評価を実施する。 6-1 必要な機器や道具等を事前に準備する。 6-2 適切なオリエンテーションを実施する。 6-3 選択した評価内容(情報収集・面接・観察・検査測定)を実施する。 3)記録・報告 7:記録すべき必要な事項を選択し、記録する。 7-1 選択した必要な事項を記録する。 8:報告すべき必要な事項を選択し、報告する。 8-1 報告すべき必要な事項を選択する。 8-2 選択した必要な事項を報告する。 4)管理・運営 9:組織の概要を理解する。 9-1 地域における施設の役割について説明する。 9-2 施設における作業療法士の役割について説明する。 9-3 他職種と作業療法士との関係を説明する。 10:作業療法の過程を理解する。 10-1 作業療法に関連する制度について説明する。 10-2 指示、記録、診療報酬請求などについて説明する。 11:管理業務の概要を理解する。 11-1 備品、カルテ、書類など必要な管理義務を説明する。 5)指導者の事例から教授を受ける 12:作業療法計画 12-1 評価結果から全体像 12-2 将来像を予測 12-3 作業療法の対象となる生活機能と障害について焦点化 12-4 長期目標および短期目標を設定 12-5 治療・指導・援助を計画
-------------------------------	---

準備学習 時間外学習	臨床は真剣勝負です。限られた時間の中で「評価」―「治療」の流れを学べるよう目的、目標を明確にしておいてください。
---------------	--

評価方法	1. レポート(25%) 2. 課題成果(25%) 3. 実地試験(50%) 評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	臨床実習施設・指導者の下、実際の作業療法の評価などを体験します
------	--	---------------------------------

受講生への メッセージ	実習施設は学校と契約を交わし、愛知県に登録された施設で実施します。
----------------	-----------------------------------

【使用教科書・教材・参考書】

なし

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	臨床作業療法学 II (Seminar to Preclinical Practice II)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	小林 由美
学科	作業療法科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期
コース	昼間 I 部					曜日・時限	

【授業の学習内容】

実習に関わる書類作成
 接遇、態度について
 評価技法について
 評価計画立案、手順について

※実務者経験: 2000年4月に作業療法士を取得し、医療法人 光生会にて回復期、老年期、地域の作業療法に関わる。また2005年に介護予防運動指導員として地域の予防活動に参加する。2008年より専門学校教員として講義を行いながら、整形外科病院やデイサービスで臨床に携わる。

【到達目標】

本科目は、2年次の後期に行われる臨床実習Ⅱを有意義な学習のするための最終的な準備を行う科目である。作業療法の実践に必要な知識、技術を整理するとともに、実習で必要となる接遇、記録の仕方、評価法といった基本的技能を確認する。
 作業療法士として必要な態度、接遇を理解し、実践できるようになる。評価計画の立案、結果の解釈、治療・介入を考慮した作業療法目標を設定することができる。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション(臨床実習Ⅱの目標等)
2回目	臨床実習の準備をすることができる。(1)
3回目	臨床実習の準備をすることができる。(2)
4回目	臨床実習の準備をすることができる。(3)
5回目	臨床実習の準備をすることができる。(4)
6回目	臨床実習の準備をすることができる。(5)
7回目	臨床実習の準備をすることができる。(6)
8回目	臨床実習の準備をすることができる。(7)
9回目	臨床実習の準備をすることができる。(8)
10回目	実習後報告会の準備をすることができる。
11回目	実習後セミナーにて事例報告することができる。
12回目	実習後セミナーにて事例報告することができる。
13回目	実習後報告会の準備をすることができる。
14回目	実習後セミナーにて事例報告することができる。
15回目	実習後セミナーにて事例報告することができる。

準備学習
時間外学習
実習にて必要となる評価技術や使用する評価用紙をファイリングし準備しましょう。
また、実習後のセミナーにて事例報告できるようにレジユメを作成してください。

評価方法	1. 定期試験(%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(100%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	臨床実習Ⅱを有意義な学びの場にすることを目的とし、接遇、記録、評価、方法等について身につけます。
------	---	--	--

受講生への
メッセージ
実習に臨むにあたり、必要な接遇を学ぶとともに、作業療法評価の方法、手順、計画立案について理解し、実践できるように知識・技術を整理しましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

なし

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	キャリア教育 I (Career Counseling II)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	後藤 由香 小林 由美
学科	作業療法科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	後期
コース	昼間 I 部					曜日・時限	

【授業の学習内容】

職業人として、職業観を身に付けるとともに、必要な知識・技術を高める。
 合同企業説明会や就職案内を通して自分の進路を方向づける。
 ※実務者経験: 2000年4月に作業療法士を取得し、医療法人 光生会にて回復期、老年期、地域の作業療法に関わる。また2005年に介護予防運動指導員として地域の予防活動に参加する。2008年より専門学校教員として講義を行いながら、整形外科病院やデイサービスで臨床に携わる。

【到達目標】

本科目は、職業人として、職業観を身に付けるとともに、必要な知識・技術を高める。また、合同企業説明会や就職案内を通して自分の進路を方向づける。

授業計画・内容			
1回目	オリエンテーションを実施することができる。		
2回目	マナー講座にて将来の設定をしていくことができる。		
3回目	自己分析講座にて自分の特性を活かすことができる。		
4回目	実習前マナー講座にて実習に必要なマナーの心得を取得することができる。		
5回目	文章力養成講座にて文章力を養う事ができる。		
6回目	履歴書・面接対策講座にて履歴書や面接方法について実施することができる。		
7回目	合同企業説明会に参加することができる。		
8回目	合同企業説明会に参加することができる。		
準備学習 時間外学習			
評価方法	1. 定期試験(%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(100%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ			
【使用教科書・教材・参考書】			
なし			